

会津若松市戊辰 150 周年記念事業実行委員会

戊辰 150 周年への取組みについて

会津若松市戊辰 150 周年記念事業実行委員会 設立趣意書

今から約 150 年前、日本の体制は大きく変革いたしました。会津はその変換期の大きな舞台となり、「義に死すとも不義に生きず」という人間としての矜持を胸に、みずからの正義を訴えるために、全員が戦いに臨みました。

近代日本の幕開けは、新しい統一国家としての出発でもありましたが、そこにははげしい抗争と変動がたえず、会津には戊辰戦争の悲劇がもたらされました。

けれども、私たちの先人は、厳しい運命に雄々しく立ち向かい、多くの苦難と戦いながら、新しい未来を創造するために意欲と情熱を燃やし続けてきました。

教育・文化・政治・経済などの多岐にわたる業績は、偉大な遺産として私たちのなかに脈々と生き続けております。

戊辰の歴史とともに、新しい時代を誇り高く前を向いて生きた会津人の功績とその思いに光をあて、様々な記念事業を開催することによって、会津の奥深い歴史や伝統ある文化を再認識し、広く情報発信するものであります。

以上の背景を踏まえ、平成 30 年度に向け、関連する記念事業の開催や地元の機運醸成などに取組むとともに、この機会を観光振興に結び付けていくものであり、今年度から計画的な取組みをすすめていくため、「会津若松市戊辰 150 周年記念事業実行委員会」を設立するものであります。

(平成 28 年 10 月 12 日)

趣旨

1868 年(慶応 4 年)1 月。「鳥羽伏見の戦い」の勃発によりはじまった戊辰戦争は、日本の国の形が大きく変革した出来事であり、会津は主要な舞台と位置づけられている。

西軍は 8 月に会津へ攻め入り、会津藩は約 1 か月間にわたる鶴ヶ城での籠城戦の末、9 月 22 日についに降伏し、「会津戦争」が終結した。

平成 30 年は会津戦争終結から 150 周年を迎える節目の年であり、本市では幕末を起点とした明治・大正・昭和・平成における会津の歴史的意義の再認識を図る重要な機会と捉え、行政や関係機関はじめ市民が連携して様々な取組みを行い、情報を広く発信することで、本市文化の振興や観光誘客に資するものである。また、これら取組みをとおして、震災による風評の払拭、地方創生を目指す。

1. 取組みの基本コンセプト

- (1) 幕末を起点としたこれまでの会津の歴史的意義の再認識
- (2) 観光誘客に資する
- (3) 本市市民の機運醸成及び観光客受入体制の向上
- (4) 当該時代の本市ゆかりの地との連携

2. 事業の骨格

(1) 記念事業の開催

- ① 記念式典の開催（ゆかりの地との連携）
- ② 記念講演会の開催
- ③ 記念誌の作成

(2) 企画展示事業

- ① 鶴ヶ城天守閣での開催
- ② まなべこ、県立博物館、その他民間施設等における企画展の開催協力依頼

(3) 誘客宣伝事業

- ① 各種宣伝プロモーション
 - ・ロゴマーク公募
 - ・特設HPの開設
 - ・映像製作
 - ・地域内外新聞等での特集記事
 - ・キャンペーンの実施
- ② 旅行商品の造成に関すること
- ③ 関連イベントの実施に関すること
 - ・会津まつり
 - ・企画展開幕セレモニー
 - ・記念講演会の開催（再掲）

(4) 地元の機運醸成

- ① 看板の設置（本庁舎等）、パンフレット等の作成、市政だよりでの紹介
- ② のぼり、ポスター、バナーフラッグの作成、掲出 ほか
- ③ 市政だよりでの紹介
- ④ 地域内外新聞等での特集記事（再掲）

(5) 歴史的意義の再認識・先人顕彰

- ① 映像製作（再掲）
- ② 市政だよりでの紹介（再掲）
- ③ 地域内外新聞等での特集記事（再掲）